

# 2023年3月期 第1四半期 決算説明資料

2022年8月5日  
株式会社加藤製作所



## I. 2023年3月期 第1四半期 連結決算概要

- |                 |         |
|-----------------|---------|
| 1. 連結業績サマリー     | P.2     |
| 2. 連結業績推移       | P.3-P.4 |
| 3. 連結損益計算書      | P.5     |
| 4. 連結貸借対照表      | P.6     |
| 5. 連結主要品目別売上高推移 | P.7     |
| 6. 連結仕向地別売上高推移  | P.8     |

## II. 2023年3月期 連結業績予想

- |                   |     |
|-------------------|-----|
| 1. 2023年3月期連結業績予想 | P.9 |
|-------------------|-----|

# 連結業績サマリー



- サプライチェーンの混乱による生産への影響や中国市場の停滞により売上高は減少
- 損益については収益性改善・強化の施策により、営業利益が前期比317百万円の改善
- 経常利益は122百万円、親会社株主当期純利益は107百万円の黒字

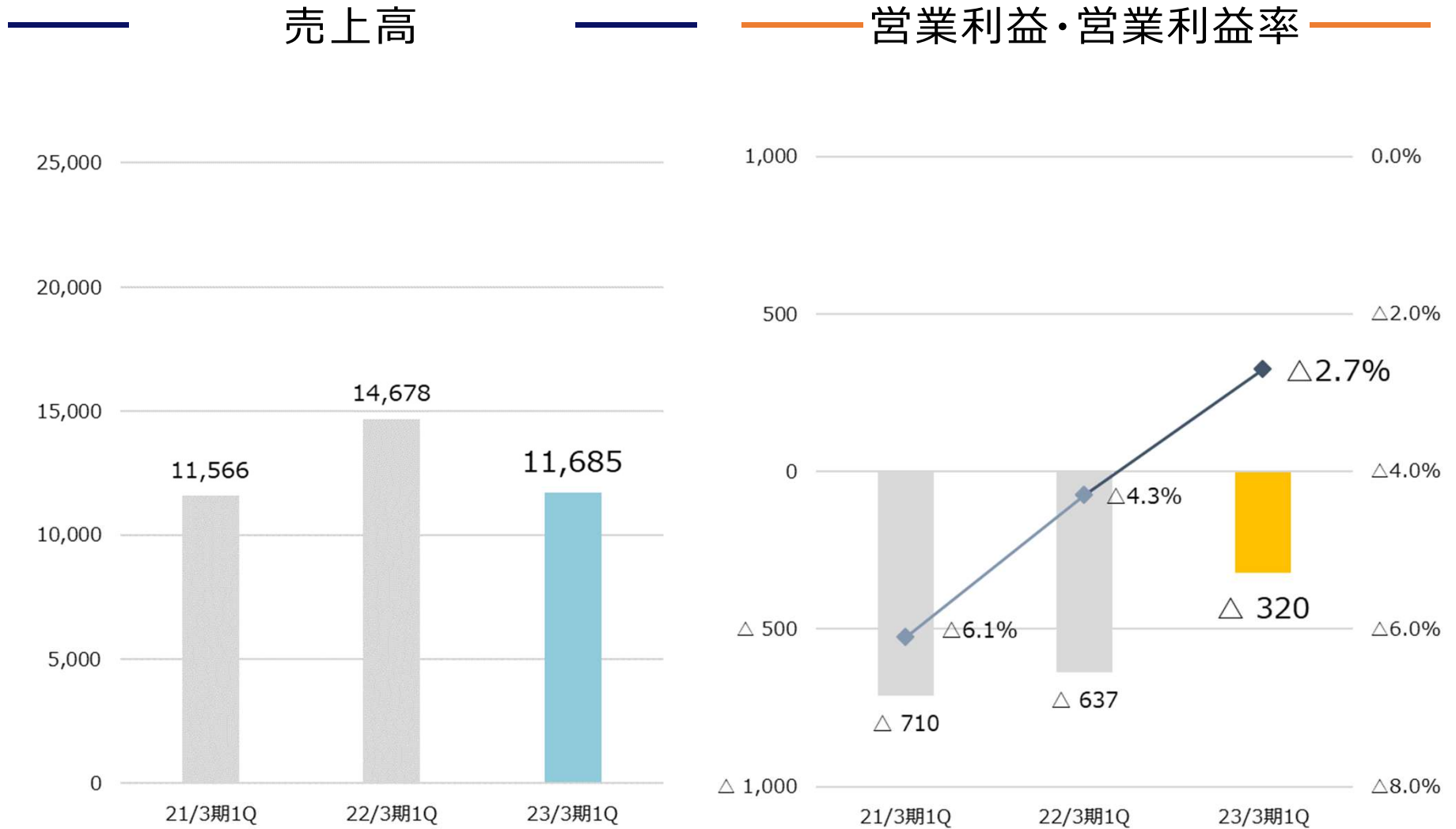
(単位：百万円)

	前期実績 (2022年3月期 第1四半期)		当期実績 (2023年3月期 第1四半期)	前期比 ( ) 内は増減率
売上高	14,678	➡	11,685	△2,992 (△20.4%)
営業利益	△637	➡	△320	317 (-)
経常利益	△471	➡	122	593 (-)
親会社株主 当期純利益	△510	➡	107	617 (-)

# 連結業績推移



(単位：百万円)



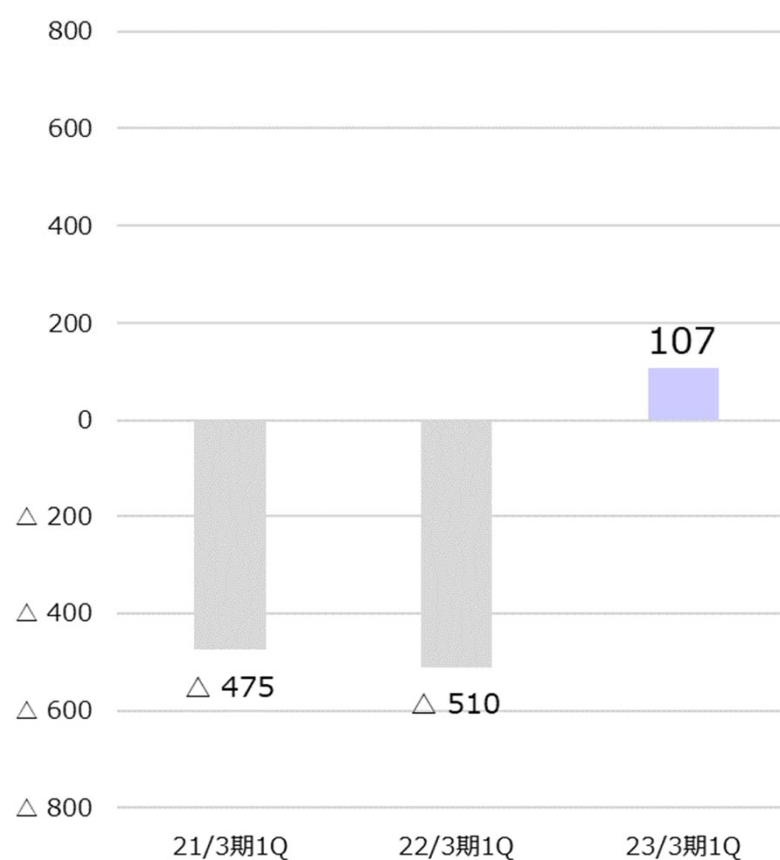
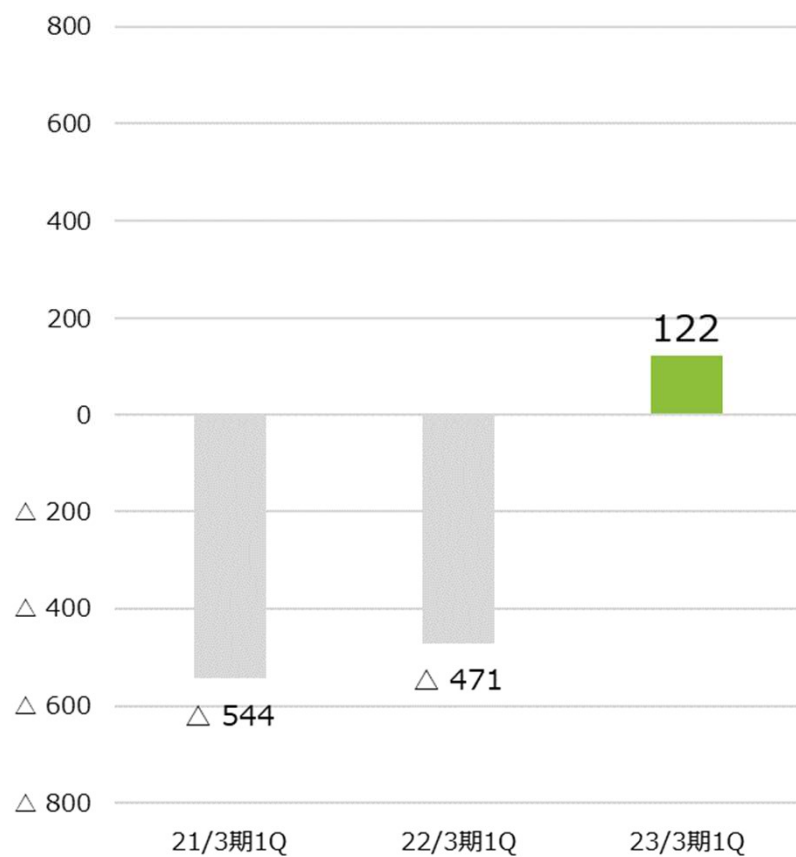
# 連結業績推移



(単位：百万円)

経常利益

親会社株主当期純利益



# 連結損益計算書



(単位：百万円)

	2022年3月期 第1四半期		2023年3月期 第1四半期		前期比	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	14,678	100.0%	11,685	100.0%	△ 2,992	△20.4%
売上原価	12,741	86.8%	10,087	86.3%	△ 2,653	△20.8%
売上総利益	1,937	13.2%	1,598	13.7%	△ 338	△17.5%
販管費	2,574	17.5%	1,919	16.4%	△ 655	△25.5%
営業利益	△ 637	△4.3%	△ 320	△2.7%	317	-
営業外損益	166	1.1%	442	3.8%	276	166.3%
経常利益	△ 471	△3.2%	122	1.0%	593	-
特別損益	-	-	-	-	-	-
税前利益	△ 471	△3.2%	122	1.0%	593	-
法人税等	23	0.2%	15	0.1%	△ 7	△34.3%
非支配株主当期純利益	15	0.1%	△0	△0.0%	△ 15	-
親会社株主当期純利益	△ 510	△3.5%	107	0.9%	617	-

## ▶ 売上原価率の改善

86.8% → 86.3% (0.5ポイント)

→ 中期経営計画の施策により、0.5ポイントの改善

## ▶ 営業外損益の増加

166百万円 → 442百万円

(276百万円)

→ 円安による為替差益などにより増加

# 連結貸借対照表



(単位：百万円)

		2022年3月期		2023年3月期 第1四半期		前期末比	
		金額	比率	金額	比率	増減額	
資産 の 部	流動 資産	手許資金	18,669	18.2%	19,512	19.1%	842
		売上債権	28,340	27.6%	25,317	24.7%	△ 3,022
		棚卸資産	32,070	31.2%	34,103	33.3%	2,033
		その他	△ 1,662	△1.6%	△ 1,595	△1.6%	67
	<b>流動資産計</b>	<b>77,417</b>	<b>75.4%</b>	<b>77,338</b>	<b>75.5%</b>	△ 79	
	固定 資産	有形固定資産	21,185	20.6%	20,944	20.5%	△ 240
		無形固定資産	399	0.4%	416	0.4%	17
投資その他の資産		3,643	3.5%	3,704	3.6%	60	
<b>固定資産計</b>	<b>25,228</b>	<b>24.6%</b>	<b>25,065</b>	<b>24.5%</b>	△ 163		
<b>資産合計</b>		<b>102,645</b>	<b>100.0%</b>	<b>102,403</b>	<b>100.0%</b>	△ 242	
負債・ 純 資産 の 部	負債	仕入債務	13,159	12.8%	14,161	13.8%	1,001
		有利子負債	40,230	39.2%	38,944	38.0%	△ 1,285
		その他	5,010	4.9%	4,243	4.1%	△ 767
	<b>負債計</b>	<b>58,400</b>	<b>56.9%</b>	<b>57,348</b>	<b>56.0%</b>	△ 1,051	
	純 資産	利益剰余金	28,495	27.8%	28,495	27.8%	0
		評価換算差額等	4,640	4.5%	5,377	5.3%	737
		その他	11,109	10.8%	11,181	10.9%	72
<b>純資産計</b>	<b>44,245</b>	<b>43.1%</b>	<b>45,054</b>	<b>44.0%</b>	808		
<b>負債・純資産計</b>		<b>102,645</b>	<b>100.0%</b>	<b>102,403</b>	<b>100.0%</b>	△ 242	

➤ 売上債権の減少

28,340百万円 → 25,317百万円  
→ 売上債権回転期間は悪化  
(22/3月期 : 162.8日  
23/3期 1Q : 197.7日)

➤ 棚卸資産の増加

32,070百万円 → 34,103百万円  
→ 棚卸資産回転期間は悪化  
(22/3月期 : 184.1日  
23/3期 1Q : 266.3日)

➤ 運転資本の改善

47,251百万円 → 45,259百万円  
→ 財務体質の改善の施策により改善

# 連結主要品目別売上高推移



(単位：百万円)

	2021年3月期 第1四半期		2022年3月期 第1四半期		2023年3月期 第1四半期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
<b>建設用クレーン</b>								
国内売上高	5,399	46.7%	5,444	37.1%	6,308	54.0%	863	15.9%
海外売上高	962	8.3%	1,911	13.0%	801	6.9%	△ 1,110	△58.1%
計	<b>6,361</b>	<b>55.0%</b>	<b>7,356</b>	<b>50.1%</b>	<b>7,109</b>	<b>60.9%</b>	△ 247	△ 3.4%
<b>油圧ショベル等</b>								
国内売上高	2,143	18.5%	3,066	20.9%	1,839	15.7%	△ 1,226	△40.0%
海外売上高	2,917	25.2%	3,967	27.0%	2,481	21.2%	△ 1,486	△37.5%
計	<b>5,060</b>	<b>43.8%</b>	<b>7,033</b>	<b>47.9%</b>	<b>4,320</b>	<b>37.0%</b>	△ 2,713	△38.6%
<b>その他</b>								
国内売上高	143	1.2%	288	2.0%	255	2.2%	△ 32	△11.2%
海外売上高	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	<b>143</b>	<b>1.2%</b>	<b>288</b>	<b>2.0%</b>	<b>256</b>	<b>2.2%</b>	△ 32	△11.1%
<b>合計</b>								
国内売上高合計	7,686	66.5%	8,798	59.9%	8,403	71.9%	△ 395	△4.5%
海外売上高合計	3,879	33.5%	5,879	40.1%	3,282	28.1%	△ 2,597	△44.2%
計	<b>11,566</b>	<b>100.0%</b>	<b>14,678</b>	<b>100.0%</b>	<b>11,685</b>	<b>100.0%</b>	△ 2,992	△20.4%

## ▶ 建設用クレーン

国内：営業力強化により、販売台数・販売金額ともに増加

海外：サプライチェーンの混乱及びアジア地域での売上減少

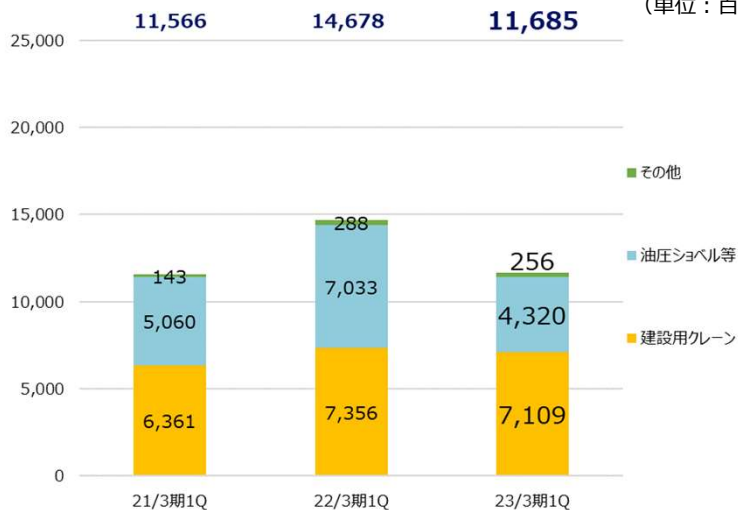
## ▶ 油圧ショベル等

国内：サプライチェーンの混乱が影響し、減少

海外：サプライチェーンの混乱及び中国市場の停滞により減少

## 主要品目別売上高推移

(単位：百万円)



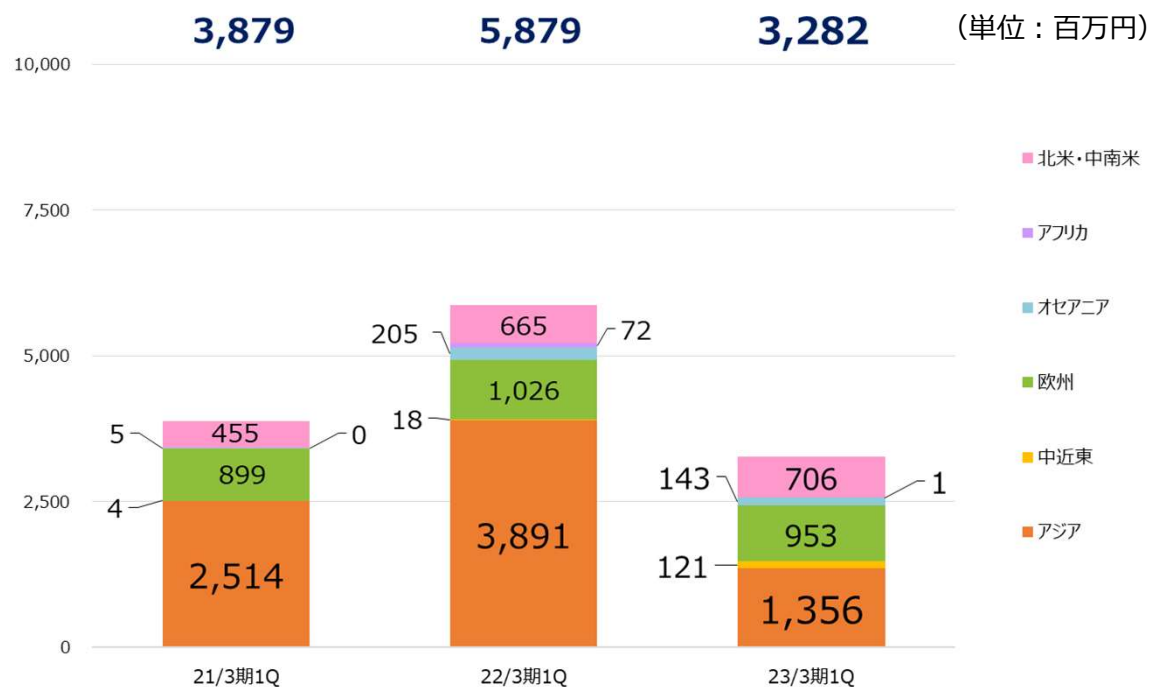
## 国内外売上高推移

(単位：百万円)





# 連結仕向地別売上高推移（海外内訳）



## ▶ アジア（前期比△65.1%）

3,891百万円 → 1,356百万円  
(△2,534百万円)

→ 中国におけるゼロコロナ政策や大規模なロックダウンの影響を受け、減少

## ▶ 欧州（前期比△7.1%）

1,026百万円 → 953百万円  
(△73百万円)

→ ウィズコロナ政策による経済活動活発化も、サプライチェーンの混乱により、横ばいにて推移

(単位：百万円)

	2021年3月期 第1四半期		2022年3月期 第1四半期		2023年3月期 第1四半期		前期比		総売上高構成比
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
アジア	2,514	64.8%	3,891	66.2%	1,356	41.3%	△ 2,534	△65.1%	11.6%
中近東	4	0.1%	18	0.3%	121	3.7%	102	558.9%	1.0%
欧州	899	23.2%	1,026	17.5%	953	29.0%	△ 73	△7.1%	8.2%
オセアニア	5	0.2%	205	3.5%	143	4.4%	△ 61	△30.2%	1.2%
アフリカ	0	0.0%	72	1.2%	1	0.0%	△ 70	△98.2%	0.0%
米州	455	11.7%	665	11.3%	706	21.5%	41	6.2%	6.0%
<b>海外売上高合計</b>	<b>3,879</b>	<b>100.0%</b>	<b>5,879</b>	<b>100.0%</b>	<b>3,282</b>	<b>100.0%</b>	<b>△ 2,597</b>	<b>△44.2%</b>	<b>28.1%</b>

# 2023年3月期連結業績予想



- 2022年3月期に計上した多額の損失が一過性のものであり、これまで推進してきたプロジェクト（KATO Reborn Project）及び中期経営計画の施策が奏功することで、特に収益面では大幅に改善するものと想定しております。一方で、海外における当社主力市場である中国の景気後退や地場メーカーとの競争に加え、ゼロコロナ政策など不透明な状況は続いております。また、サプライチェーンの混乱による工場の稼働低下、原材料や原油価格の高騰による売上原価の高止まり等が現状、収益を押し下げる要因として捉えております。

新中期経営計画で掲げた施策を遅滞なく進め、計画数値を達成してまいります。

(単位：百万円)

	2022年3月期	2023年3月期(予想)	
	金額	金額	増減率
売上高	63,549	64,100	100.8%
営業利益	△ 7,222	1,300	—
経常利益	△ 6,929	1,000	—
親会社株主当期純利益	△ 9,575	600	—

本資料に記載されている現在の計画や今後の見通しに関する内容につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて、計画・予想したものであります。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのため、本資料におきましては、その実現を確約あるいは保証するものではありません。

## お問合せ先

株式会社加藤製作所  
総務部 IR担当

〒140-0011 東京都品川区東大井1-9-37  
E-Mail: [ir-kato@kato-works.co.jp](mailto:ir-kato@kato-works.co.jp)